

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	○	・玄関、廊下などに掲示されておりいつでも復唱でき、職員の認識を高められるようにしている。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	○	運営理念の実現に向けて職員同士の連帯感、を大切に利用者個々の尊厳を大切に、毎朝の申し送り及び、毎月1回の安全会議を行い利用者が安心して、楽しく生活できるよう検討会議を行っている。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	○	・地域運営推進会議を2か月に1回行っています。高齢者福祉課、地域の民生委員、区長様包括支援センターの方々の集まっただき、現状報告、情報交換、意見交換を行っています。 ・また利用者、家族職員合同での行事も企画し、家族様より積極的な意見交換ができた。(1月)
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		・畑に野菜を植えて頂くボランティアさん、収穫時期になると利用者、職員合同で収穫作業を行っています。又近所の子供さんも庭園で遊んだり気軽に利用していただいている。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	○	・地域に根ざした取り組みとして、近くに公民館があり、利用者の趣味などが生かされるよう囲碁、将棋などに出向いたり、来ていただき交流を図りたい。(1月公民館に問い合わせ、囲碁、将棋の出来る方に来ていただきました。) ・月一回のよらこい喫茶に行かせていただいています。
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	○	・中学校の福祉体験学習については今後の福祉を担っていただく財産と思いや、仕事への希望につながるよう研修の受け入れを行っている。・ボランティアの受け入れについても知人地域の方の協力が得られるよう広報活動も行っていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>随時ケア向上に向けて話し合い、具体的に改善できるように取り組んでいる。</p>	<p>・自己評価を記入していただき個々の意識を高めていけるように認識を持ってもらう。</p>
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営理念、ケア計画、情報提供等、利用者のケア向上のため、全員で取り組んでいる。</p>	<p>・地域運営推進会議を2か月に1回行っています。高齢者福祉課、地域の民生委員、区長様包括支援センターの方々の集まっていたいただき、現状報告、情報交換、意見交換を行っています。</p> <p>・また利用者、家族職員合同での行事も企画し、家族様より積極的な意見交換ができた。(1月)</p>
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>必要時は連絡を取り、相談している。</p>	<p>○</p> <p>市町村事業等について運営推進会議に参加していただき、又はブロック会議への参加により情報交換の場を広げていく。</p>
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>研修、学習をする機会を設け、必要時様々な制度を活用し、少しでも利用者にとって良い環境を提供できるように関わっている。</p>	<p>○</p> <p>OJT参加の機会を多くもてるように検討していく。</p>
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>職員一人ひとりが認識を持ち、身体拘束等、虐待を受けることのない生活支援に努めている。</p>	<p>虐待に関して研修に施設内、施設外を問わず参加し、意見交換の場を作り今後のケアに生かす。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、重要事項の説明は文書を用いて十分な説明を行っている。		・入院、退院、身体状況の変化があった時はその都度説明を行い、理解していただけるようにしている。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置し、苦情等があれば管理者から職員への速やかな申し送りにより対応策の検討、ユニット内での改善、実行を行っている。		・家族との親睦会を設け積極的な意見交換ができ、要望事項で掲げられたことを積極的に改善できるよう検討している。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時の声かけやお便りの送付、必要時連絡をしている。また、金銭管理については金銭の預かり帳を作成し、入金の際には必ず出納帳を家族に提示し金証を発行し確認を取っている。		健康状態の変化があった時や、面会時のご様子をお話したり必要があれば衣類、物品購入などのご相談をさせていただいている。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置しているが家族会までは開催していない。苦情等があれば管理者から職員への速やかな申し送りにより対応策の検討、ユニット内での改善、実行を行っている。	○	・行事の後に懇談する機会を設け積極的な意見を反映できるよう検討している。又面会時もお話したり希望事項なども聞くようにしている。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営理念、ケア計画、情報提供等、利用者のケア向上のため全員で取り組んでいる。		・ユニット会議を毎月行い利用者個々のケアについて検討、共通認識を持って対応。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	十分な対応ができるよう、職員の勤務の調整を行っている。		・職員の体調不良などにも柔軟に対応ができるよう人員体制を計画する。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	なるべく馴染みの職員の移動はないように努めているが、移動がある場合には利用者の心理的ダメージが最小限となるように傾聴し対応をしている。		職員の移動に関しては、現場の責任者と管理者と検討を重ね、やむを得ないと判断した時のみ行なう。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	行政の研修を受ける機会がまだ少ないため、OJTを通じての機会を多くもつようにしていく必要がある。研修報告の提出はできている。職員の段階に応じた研修は講じている。	○ ・苑内での勉強会や、ユニット会議などでも問題点や、介護方法、対応の仕方など不明な点で解決できることは内部研修を行い、職員の意欲につなげ外部研修などにも積極的に参加を呼びかけ少しずつ研修に出かける機会が多くなってきた。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流を深める機会をもつように努力しているが十分とは言えない。苑内での勉強会は行っている。	○ 地域の同業者との交流の案内など機会があれば参加するようにしている。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	不規則勤務であり、なかなか職員同士の親睦を深めるための会を設けることができないが、職員の体調不良、仕事の様子を観察し職員の悩みや、困ったことなど気軽に相談できるよう声かけや、現場での様子を観察している。	○ 親睦会を企画し、職員同士の交流が深まる時間を作るように計画をする。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	勉強会を開いたり、変則勤務ではあるが、なるべく休息がとれるように勤務の調整をし、向上心をもって働けるように努めているが十分にできているとはいえない状況である。	○ 職員が向上心を持ち、働きやすい職場の雰囲気をつくるためにはどうすれば良いかを検討していく。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用者の生活歴を知り、現在困っていること、不安に思うことを聞き、個別的なプランを提示、適宜話し合いにより修正を行っている。	○ ・アセスメントに時間をかけ利用者や家族、との信頼関係を築きケアマネなどの情報を生かし本人のニーズに添えるケアに努める。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族の想いも傾聴し、その想いを受け止め、より良い関係を築けるように努力している。	○ 相談時はもちろん、入居後も必要に応じカンファレンスを開きケアプランを提示、利用者様をはじめ、ご家族の意見も取り入れていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」ま ず必要としている支援を見極め、他のサービ ス利用も含めた対応に努めている	利用者によって今、何が一番必要なサービスなのかを見極 めるためにも十分話し合いを行うように努めている。		ご本人はもちろん、御家族、馴染みの友人等からも話を 聞く機会を持ち計画作成に役立てる。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用 するために、サービスをいきなり開始するの ではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気 に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工 夫している	利用者の生活歴を知ることで今までの生活状況で継続でき ることは続けてもらうような配慮を行っている。また、玄関、庭 園にベンチを設けたり、リビングには畳の間やソファを提 供することで利用者さん同士のコミュニケーションを図れる場 を提供している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におか ず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、 本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者のできることを知り、それを利用者にしてもらうことで、 一方的に援助を受ける立場ではなくともに生活し、協力しあ える関係を築けるように努力している。また、介護計画の作 成には本人とも相談している。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におか ず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えて いく関係を築いている	適宜連絡を取り、家族にも協力を要請することで共に利用者 の生活を考え、支援していけるように努めている。また、介護 計画の作成には家族とも相談をしている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努 め、より良い関係が築いていけるように支援し ている	今までの生活状況をなるべく知り、双方共に良い関係が築 けるように支援しているがまだ十分ではない。	○	家族介入のための支援は様々な生活背景があるため難 しいが、良い関係が築けるように話し合いの場をなるべく 持つ。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や 場所との関係が途切れないよう、支援に努め ている	定期的な外出を計画したりしているが、全ての利用者に対 しては行っていない。	○	これまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途 切れないように支援するための方法を検討する
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤 立せず利用者同士が関わり合い、支え合 えるように努めている	日中はなるべく離床してもらい、その人にあつた活動を取り 入れている。また、利用者同士がコミュニケーションを図りや すい場の提供も行っている。		・利用者共有の場においてみんなが一緒に楽しむことが できるように声かけや、援助をを行い、橋渡しとなるよう心 がけている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	継続的関わりが必要な家族や利用者に対しては、訪問したりと関係を断ち切らないようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	なるべく本人の意向に沿えるように意見箱を作ったり、話をきいているが十分反映できているとは言えない。	○	どうすれなより良いケアを提供できるか本人、家族及び職員と検討をしていく。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	それぞれの意向を完全に把握しているとは言えないが把握できるように努めている。		・家族、本人、友人など面会時などに合わせ情報をいただき個別サービスの向上に努める。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	カンファレンスを開き、職員同士情報を共有し、なるべく把握するように努めている。		・職員が共通した対応ができるよう個別に夜間の状況などをまとめ情報の共有化を図った。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族、職員との話し合いにより介護計画は作成している。		研修、会議、検討会、さまざまな場面でケアに対する情報の交換をし、記録をする。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態の変化に伴い情報の共有を図りながら、現状に即した計画への修正を図っている。		現場での、考えや情報、を基に検討会を開きケアの方向性を共有し実践する。その後は評価を確認更に現状に即したケア計画を立てる。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の申し送りやカンファレンスを通して情報の共有化を図り、介護計画の見直しをしている。		・ユニット会議、申し送り、カンファレンスなどにより情報を共有し、実践を行っている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	その時々状況により事業所の多機能性を活かした対応ができるような環境を作っているが、見直しが必要な部分もある。	○	利用者、家族の状況や要望に添えるような環境をつくれるように職員が協力し、情報の共有化、意識の向上を図る必要がある。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	必要に応じて協力しながら支援を行っているが、本人の意向については疾患からも把握しにくいこともあり判断が難しい。	○	・本人の意向にあうサービスの利用により楽しみをもって頂く喫茶に出向いたり、囲碁の相手をして頂くなどの協力いただいている。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のケアマネジャーやサービス業者と連絡を取り、必要に応じて他のサービスを提供できるようにしている。		・利用者の生活の中で必要と思うサービスを利用し、本人のQOLを高める役割ができる。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターと協働し支援している。		・運営推進会議など情報交換の場を持ち、関係を築くようにしている。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	近くの医院と連携を密にしている。夜間の連絡相談は病院の救急外来と対応を図っている。また、入居時、本人や家族の希望する医療機関を確認し決定している。		・主治医との信頼関係を築き、夜間対応、緊急時の受診など報告や、紹介状の依頼など救急病院と主治医との連携も出来ている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症に知見が深い医師かどうかの判断は難しいが連携している医院があることで、利用者の状況は医師にとっても把握しやすい状況であり、必要と判断した時には病院への紹介状を書いてもらい対応している。		・本人の状況により担当職員やカンファレンスなどにより専門医の診察を検討することもある。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	必要時情報提供し、相談を行っているが気軽に相談ができるまでの関係はまだ築けていない状況である。	○	日頃から看護職員と介護職員の連携を密にし以上の早期発見、報告・連絡・相談、がしやすい関係を作っていく。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院の受け入れは空床があれば受け入れてもらえており、入院先の医師や医療相談員と連携をとり、定期的な経過観察、家族との話し合いで決めている。		・協力病院の確保により入院時、経過時、退院時の状況まで面会など重ね本人、家族、担当医とのカンファレンスを行い今後の見通し、退院後の対応、予測事項、など共通理解し安心して過ごせるよう支援している。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期や重症化した時には分かった段階で医師との相談をし、家族、職員全員、可能であれば本人を交えて話し合い、利用者にとって一番よい方法を検討しているが、方針については職員同士で意見が別れる事も多い状態。	○	統一した介護観を持ち、ケアができるように話し合いを進めていく必要がある。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	現在の段階において、事業所でできることとできないことを見極め、今後どう支援していくのかを検討しているが、職員間の知識・技術にも個人差があるため、判断が難しいこともあるが、検討し支援を行っている。	○	なるべく職員間の知識・技術を高め、利用者により良いケアを提供するにはどうすればよいのか検討していく必要がある。 ・終末期の対応が可能な条件が整うか、今後の検討課題として、勉強会や、対応策の検討また家族への理解と協力が可能であるか、しっかり話し合い主治医との連携も確認が必要である。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	職員で情報を共有し利用者の精神的ダメージが最小限となるように関わっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりのプライバシーの保護に努め、家族からの希望があれば個人情報の提供をおこなっているが、利用者との関係を確認してから行っている。濫りに個人情報を漏洩するようなことは行わないように指導をしている。	年に何回かは、守秘義務の研修、確認をしていきたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している	利用者の意見、要望の自己決定は疾患により十分にできるとは言えないが、個々の理解力に合わせた話し方をし、その返事を待てるだけのゆったりとした対応がもう少し必要である。	○ 余裕のある業務の時間配分と優先順位を話し合う。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	心がけではいるが、利用者全員には目が行き届いてはいない状態。訴えのある利用者に対してはしっかりと受け止め対応している。	○ 本人の要望・課題をしっかりと把握し、居室担当が個別援助計画に反映させチームケアを行っていく。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	理美容移動車を活用している。(価格も安く、利用者も満足をしている)	・本人の希望により、顔そり、毛染めなども楽しみのひとつに移動理美容車でしていただいている。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は職員が作成しているが、下ごしらえや盛り付けなどは一緒に行っている。また、入居時普段使用している箸や食器類を持ってきてもらい利用するなどの工夫も行っている。	・食事準備や、後片付け、食器洗いなど一緒に行っている。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	現在はお酒、たばこに関しては禁止しているが、他の飲物、お菓子類はご本人の希望に添えるようにしている。	・ご本人の意向や、家族の気持ちなど確認し、家族から持参いただいたり、ご本人と一緒に買い物に出かけ提供している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄のリズムを理解した排泄支援は十分にはできていないが、オムツをなるべく使用しないように考慮している。	○	・一人ひとりの排泄リズムが把握できるように排泄前のサインを見逃さないような関わりを持つように努力する。 ・日中はその人のリズムに応じて声かけや、誘導を行い出来るだけ自力排泄ができるようリハビリパンツを使用し、トイレでの排泄を心がけている。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の要望を取り入れ、入浴を楽しめるように支援している。多くは午後3時半頃からで、長時間の入浴はしていない。		・利用者により入浴の希望や、入浴時間帯、対応職員など安心して入浴できる環境に配慮している。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	利用者一人ひとりに応じた心身の休息時間を取り入れている。		・安心して休息睡眠がとれるよう、ベッドの配慮や、室温、昼の生活など気をつけている。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	カラオケ、庭の畑の収穫、掃除。洗濯物たたみ、食器洗いなどその方にあった役割や楽しみの支援をしている。		・趣味活動として囲碁、編み物、縫物、食事作り、など共同で行ったりと生きがいのある生活となるよう支援している。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人、家族と話し合い、金銭の自己管理が可能な方は自分で管理してもらっている。しかし、認知症のため多くはホームでの管理になっている。		・外出の希望時にはご本人に使用用途に応じた金額をお渡し、買い物をされたりしている。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出の機会は日常的につくっており、行きたい方はホームの車で出かけられるように支援している。		・職員体制があるときに個別ケアとして本人の希望の沿った対応ができるよう計画実行している。(1月は誕生日に外出し誕生日祝いに喫茶店を利用し喜んでいただけた。)
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族の協力を得て外出をされている利用者もおられるが、ほとんどは行けていない状況である。	○	一人ひとりの希望に添えるように介護体制の充実と他機関との連携を図っていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望者にはきちんと対応している。		・ご自分の部屋に独自の電話を設置され自由に電話のやり取りをされていく方もあります。又施設から自由に外部に電話ができるよう対応している。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	入居契約時に家族の出入り、ホームでの宿泊は自由であることを説明している。職員も笑顔で迎え、お茶等を出したりして対応している。		・面会時は自分の部屋で落ち着いて話せる時間を持っていただけるようお茶を出し職員も面会についての感謝の気持ちを伝えている。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	認識しており、拘束の無い生活を支援している。		・本人の気持ちに添うよう行動など付き添うことや傾聴を心がけている。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	自由に出入りはできるが、入居者の動向には十分注意をしている。		・入居者の行動、予測できる状態により外出など本人の行動につき添うようにしている。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	プライバシーに配慮しながら、入居者の傍で職員の誰かが見守り、危険なく安全に過ごせるように支援している。		・転倒の危険性のある方については、日頃から見守りや行動に注意している。又夜間の職員の手薄な時間帯は転倒防止のセンサーマットなども設置している。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	限られた空間の中ではあるが、転倒を予防できるだけのスペースの確保など工夫を行い、危険防止に努めている。		・転倒の危険性のある方については、行動の制限を最小限度に留め見守りなど職員全員で協力し合っている。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	緊急時対応マニュアルを作成してあるが、実際にその場でマニュアルに沿って適切な処置ができるかはわからない。しかし、重症化しないように職員間で連携を図り功を奏していることもある。	○	・緊急時の対応についての予備知識の勉強会を行った。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	事故発生時の対処方法のマニュアルはあるが、定期的な訓練までは行えていない。	○	定期的に訓練ができるように検討する。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害に備えての訓練は行っているが、地域の人々の協力を得られるような働きかけまでは行っていない。	○	地域住民の協力を得られるような働きかけを検討する。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	家族には起こりうるリスクについての説明を行っているが、そうならないように職員同士話し合い対応している。		・転倒のリスクなどに対応できるようセンサーマットの使用など家族に理解していただけるよう十分説明を行い設置している。又改善策などユニット会議にて対策、検討をおこなっている。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日の身体状況の観察、異常の早期発見(バイタル測定)に努めている。また、適宜主治医、看護師に相談し、指示を受けている。		・主治医との連携を深め、緊急時の協力病院などと連携に努め、早期発見、早期対応によりADLの低下を防ぐよう心がけている。呼吸状態の測定SPO2測定の勉強会なども行って、緊急時の対応に日頃から対応できるようにしている。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師情報に基き管理をしている。与薬時は二重チェックを行っている。但し、全ての薬剤に対しての十分な知識はもっていない可能性がある。	○	・服薬管理は管理者が現在行っており、誤薬や、服薬忘れなどの間違いがないよう、日付を薬袋に記入して確認している。排便コントロールについても毎日の申し送りにて確認指示を行っている。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	利用者の状況に合わせ運動を取り入れたり、水分補給に努めるように指導をしている。		・毎日の申し送りにて個々の利用者さんの水分、排泄、食事摂取量について確認し体調不良など早期発見に努めている。医師との連携を密にしている。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	・毎朝の口腔ケア、及び就寝前の義歯洗浄、ポリドント消毒など行っている。義歯の合わない方などは歯科医師との連携を取り往診などの対応をしている。		・最近では義歯の合わない方、調整、今まで義歯を使用されなかった方など、積極的に歯科医師の相談、往診に手対応していただき口腔ケアや、歯磨き指導などを受けるようになった。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの必要エネルギー量を計算し提供をすることはできていないが、おおよそ必要となるカロリーは提供している。水分摂取量の把握はできている。		・利用者の状態に合わせ、栄養状態、摂取量の低下などには医師と相談高カロリーの飲用品を飲んでいただいたり、と健康状態の把握に努めている。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染病防止マニュアルに沿って、インフルエンザの予防接種の必要性を家族に説明し、理解を得てきている。また、次亜塩素酸系のハイター漂白、エタノールによる手摺りの拭き取り等、感染症予防マニュアルを職員に配布し、衛生管理に努めている。		・利用者はもちろん、職員の体調不良など、早めの予防受診をすすめ利用者への感染防止に心がけ、利用者の風邪、発熱時は、個室にて対応し感染の予防をしている。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食中毒の予防のため衛生管理と新鮮な食材の使用に努めている。	○	・毎日調理器具、布巾など、感染防止のため、消毒や除菌に努め、衛生面で気をつけている。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	日本家屋造りで違和感や威圧感を感じさせることなく利用者や家族が入りやすく、近隣の住民も訪ねやすいように玄関周りには植木や花、畑を取り入れて民家の雰囲気を出している。また、ベンチや広い庭園があり気楽な散策もできるように配慮している。	○	・玄関先にはいつでも飲用していただける名水なども設置し気軽に飲めるようにしている。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	状況に応じた環境作りに職員同士気を配り、テレビ等の音の調節や日差しに応じてカーテンを引いたり、職員の言葉のトーンや声量にも注意をしている。季節間のある手作りの絵や、写真を掲示している。	○	浴室などは、安心してゆっくり入れるよう個別に入っている。又、ADLの低下された方がゆっくり安全に入ってもらえるよう特殊浴槽を利用している。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとり部屋は個室とし、プライベートな空間と玄関や庭園にはベンチを設けたり、リビングには畳の間やソファを設置したりとコミュニケーションを図れる場の提供をしている。		・季節に応じた空間作りに和室は炬燵の設置し皆さんでくつろいでいただいている。 ・壁面には、季節の行事の貼り絵などを貼って雰囲気づくりを行っている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力により利用者にとって必要な愛用品は持ってきてもらっている。		・仏壇や、ソファなど自宅で身近なものを持参して使用されている。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	各部屋に冷暖房の設備があり、必要時は家族と話し合い加湿器を設置したりしている。また、職員が常時見回りを行い温度調節や換気に努めている。		・毎朝職員が各居室に伺い、換気に努めているまた、清潔、感染防止のため、洗面所なども毎日消毒を行っている。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できる方は進んで自立した日常生活が送れるように箸、雑巾、モップ、裁縫道具、書道、碁盤などいつでも使用できるように準備がしてある。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室やトイレには目印をつけ、不安や混乱が起きないように職員も誘導など気配りをしている。		・本人が、出来る仕事で意欲を持ってもらえるように個性を伸ばせる機会を作っている。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭園や畑など、利用者が楽しんだり活動したりできる環境を整えている。	○	・畑で作ったものをみんなで楽しみながら協力して収穫したり、散策などもおこなっている。

V. サービスの成果に関する項目			
項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

基本理念と運営理念に沿った介護を行なっていきます。昔ながらの日本家屋と庭、近くに武内神社があり穏やかに過ごせる様に支援いたします。ぜひお立ち寄りください。